

神奈川県ビリヤード協会 -議事録-

2024.1.17 12:00～ Zoom 会議

参加者：安藤・崎村・板橋・田口・石井・杉万・浦野



| 1

議論内容：

1. 高校へのビリヤード台の設置について
2. 協会加盟店舗へのアンケート調査の回答から行うべき活動の方針について
3. KBA 年間スケジュールについて

1. 高校へのビリヤード台の設置について

BCJ に連絡を取りました。BCJ は体育の授業でビリヤードを行いたいという高校へビリヤード台を設置することに対して協力してくれることになりました。このことから以下のような形でビリヤード台を寄贈するプロジェクトを進めていきたい。

- ・学校はイニシャルコストを無償で今後想定されるラシャの張替えなどのメンテナンスにかかるランニングコストは有償（KBA が窓口となり運用協力を行う）

=> 承認

- ・学校に寄贈するだけで終わりとせず、KBA はきちんとプロジェクト化する。例えば次世代育成プロジェクトとか命名して、そこに予算を立てて事業としてプロ講師を送るとか、競技を知ってもらえるようにプロの試合を観戦してもらおうとか部活にしてもらえるような計らいを行いたい。

=> 非承認。時期尚早。KBA の希望や願望が前のめりになりすぎ。まずは学校の要望に沿う形が良い。無償寄贈は「公益性のある普及活動」。プロ講師の派遣や観戦の推進活動は「ジュニア育成／業界活性」。普及事業とビジネスがごちゃ混ぜになると学校側に圧を掛けることにもなりかねない。話を切り分けて考える。台を置かせてもらうことだけでもありがたい話。0 を 1 にするべく台を置かせてもらうことに注力していく

- ・どのくらいの頻度で学校は体育の授業でビリヤードを行うのか？

=> この学校は体育の授業が 2 種類あり、生徒が選択できるようになっている。1 つが「普通の体育」。もう 1 つが「新しい体育」。この「新しい体育」の授業を選択した生徒は複数の種類の種目を行います。その中の 1 つとしてビリヤードを加えてもらえることになると 1 種目は 4 時間程度の見込み。なのでビリヤードも 4

時間程度の見込み。授業が半年単位なのか年単位なのかはまだわかりませんが、上限が30名という話なので「30名×4時間＝120名時間」が半年ないし1年の間にビリヤードに触れる結果となる。ビリヤードをやったことのない人や接する機会の無かった人がこの体育授業を通して120名時間（年2回なら240名時間）。このようなサイクルが毎年積みあがっていくことになる。

・ビリヤード台の所有権は？

⇒ 寄贈という形なので、レンタルではなく提供。学校側に所有権が移る。学校側も所有権が学校側に移る方が管理の都合上助かるとのこと。ただしメンテナンスや撤去の場合は学校側に費用が発生する旨は伝えていて先生と口頭では合意済 ⇒ 承認

・KBA にとっても学校にとっても初めての事業。想定される問題を洗い出したい。

⇒ 学校側に負担を掛けず、想定される問題を洗い出して学校の先生にヒアリングする機会、具体的には学校に KBA が行って打合せを行う。

打合せ第1弾：ビリヤード台を置かせてもらうお願いと必要となるビリヤード用具の確定。
学校の要望をヒアリング。

打合せ第2弾：第1弾の話が進めば具体的な設置や問題になりそうな話の解消。

・KBA のプロジェクトとして予算は取る？

⇒ タップ交換や人材派遣などランニングコストが掛かってくるはず。総会で加盟店舗に承認して頂けるように数万円の予算を組む ⇒ 承認

2. 協会加盟店舗へのアンケート調査の回答から行うべき活動の方針について

協会加盟店舗にアンケート調査を実施したところ回答率30%でした。

加盟店舗が KBA への加入理由として最も多く挙げているのは「神奈川店舗とのネットワーク構築のため」で、6件の店舗がこの理由を選択しています。これは、地域内での協力と情報共有、相互支援を重要視していることを示唆しています。改善点としては、「ビリヤードをしたことのない人への普及活動を増やしてほしい」という意見が最も多く、3件の店舗が指摘しています。今後のイベントでの要望としては、「交流会」及び「C級ビギナー戦の充実」が3件となっており、参加者層を広げる活動が求められていることが伺えます。また、理事会に関しては「ポケット関係者の理事を増やす」という意見があり、組織運営の多様性に対する要望が見られました。

⇒ 上記の活動を全て行うことは人手が足りず不可能。優先順位を決めることが必要。

メンバーと同士のコミュニケーションの場を作ることを優先とする。（もっと具体的に聞き取りが必要）

会加盟店の中でもオーナー同士が知らない人もいると思うのでまずは理事および理事長が店舗に顔を出し、もっと詳細なヒアリング、コミュニケーションをとっていく。

3. KBA 年間スケジュールについて

キャロムの日程は決定。

アンケート結果の「C 級ビギナー戦の充実」という要望に沿い、わかばカップの日程は昨年2回を今年は3回に増やしていく。

=> 承認